

「ストックの和名とフレグランスの記憶」

平野佐和 会員

空間を香らせた花「ストック」

「これはよく香りますよ、楽しんでくださいね。」花屋のマダムから嬉しい言葉が添えられたその植物は、私が購入した「ストック」のスプレータイプでした。柔らかそうな微毛に包まれた蕾の愛らしさ、ふわふわとした花びらの重なりと密集する小さな蕾の華やかさに惹かれて入手を決めたのですが、その時点ではこの植物の名前すら知らなかったのです。2020年もあとわずかという師走のことでした。



ストック

花卉へ自身の鼻を近づけてみると、確かに特徴的な匂いを感じられました。これはよく香りそうだと思像。

甘く、スパイシーな温かみのある香りです。部屋で水に挿してしばらくすると、芳香はふんわりと周囲に広がりました。クローブを思わせるスパイシー感とほのかにパウダリーな甘さのハーモニー。室内に入ると優しく漂うこの香りに気付き、あたたかさすら感じられたことを思い起こします。

特に空気がひんやりとする秋から冬、私は自宅空間に好みの芳香をそっと漂わせたくになります。ルームフレグランスやアロマキャンドル、お香など、場面に応じて様々な手段を試した経験はありました。しかしながら、「ストック」のように、生花で期待以上の香り方を感じられたのは驚きでした。その後、2021年の早春にも薄紫色の「ストックマリンカルテット」を入手、同様に芳香を楽しみました。

和名は「アラセイトウ」

「ストック」という植物について書物で調べたことを記します。原産地は南ヨーロッパで、アブラナ科。古代ギリシャや古代ローマでは薬草として利用されたそうです。和名は「アラセイトウ」。1988年に刊行された『原色茶花大事典』（淡交社）の花名総索引で「あらせいとう 紫羅欄花」が確認でき、「四月」の花として説明がありました。漢字表記「紫羅欄花」には誤用漢名と書き添えられています。その説明から、一部を引用して記します¹⁾。

学名は *Matthiola incana* R.Br.

別名「ストック」。一年草。花色は紅、桃、紫、淡黄色などがあり多彩。一重咲き、八重咲きがあり、4～5月に開花する。古くから栽培され、よい香りのする草花として改良園芸化された。



ストックマリンカルテット

改良園芸化の影響で多様化した結果、様々な品種の切り花を入手できるようになったのかもしれませんが、2020年に刊行された本には、この植物の開花期は2～4月と記されており、切り花の出回り時期は10～5月、ピークは11～12月、秋～春まで安定流通、とのこと。秋が深まり始める頃から年末にかけて、花屋で見かける確率が高くなりそうです。

和名の「アラセイトウ」に、どこことなく懐かしさを感じました。この6文字を音読したような自身の声の感触がありました。いつのことだったか、最初は思い起こせなかったのですが、2022年にその記憶と再会することになります。

忘れ得ぬフレグランス

2022年春、『香君』というファンタジー小説の上下巻を夢中で読みました。主人公は、人並み外れた嗅覚をもつ少女。無数の命が香りを発してコミュニケーションを交わす声を聞き取る彼女の姿を想像しながら、私自身も一生物としての視界を広げられたような読後感でした。その頃から、あらためて「香り」と自身との関わりを考える時間が増えたのです。その影響からか、過去の愛用香水を振り返る機会を持ちました。

これからの限られた命の時間、自分のために身に纏い、心から楽しみたいと思える香りは、必ずしも新作の中だけではなく、過去に出会っていた香水の中にもあったかもしれないのです。かつて愛用していた香水の多くは、残念ながら廃盤となっていました。2022年の時点においても日本で入手可能なものを探しました。その一つ、Christian Diorの『DUNE』(デューン)は、日本で発売されたのが1992年。今年は30周年です。



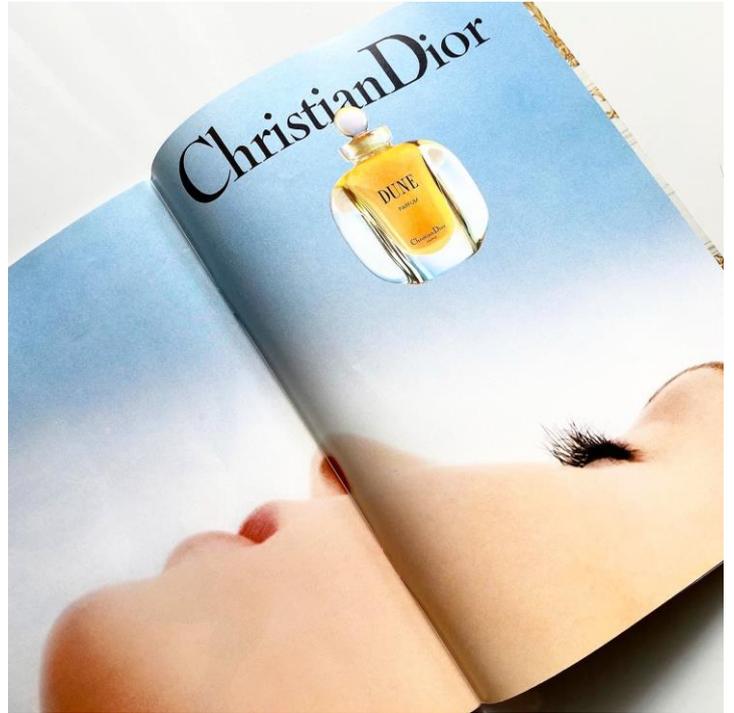
『DUNE』 ボトル

香りの専門誌『PARFUM』No.82(1992年夏号)誌面には、この『DUNE』をテーマとした、平田幸子編集長とH.P.カペラー氏(当時のパルファン・クリスチャン・ディオールジャパン(株)代表取締役)との対談記事が掲載されていました。その中から、一部を以下に引用します⁴⁾。

Q デューンの香りの特徴であるオセアニックフローラルについて教えてください。

A 砂丘、海、田園の澄みわたる空気、軽やかな風のイメージを表現した香調です。ハリエニシダ、アンバーのアクセントをつけています。そして、ホワイトリリー、ニオイアラセイトウ、ボタン等のフローラルでまるやかな優しさを表現しています。ですから、きらめく風のような軽やかさと、海や花のようなまるやかで奥行きを深さとを合わせもつ全く新しい感性を表現する香りがオセアニックフローラルなのです。

カペラー氏の回答文を、当時幾度も声に出して読んでいた記憶が蘇ります。その中に「ニオイアラセイトウ」の一語を発見します。「ストック」の和名が隠れていました。素材香料の一つとして公表されていたのです。「ニオイアラセイトウ」と「アラセイトウ」とは同一ではないかもしれませんが、私にとってこの6文字の響きは『DUNE』の思い出の一端であり、香る花「ストック」の記憶にも添えられていくことでしょう。



『DUNE』 広告ヴィジュアル

香りの専門誌『PARFUM』 No.82 誌面より

参考文献

- 1) 塚本洋太郎監修『原色茶花大事典』 淡交社 1988年
- 2) 深野俊幸、大田花き監修『花屋さんに並ぶ植物がよくわかる「花」の便利帖』 KADOKAWA 2020年
- 3) 上橋菜穂子『香君』上下巻 文藝春秋 2022年
- 4) 平田幸子、H.P.カペラー『DUNE』香りの専門誌『PARFUM』 No.82 (有)パルファム 1992年

平野佐和 (Sawa HIRANO) プロフィール
・プランナー
・香りの専門誌『PARFUM』編集メンバー
・文化服装学院講師

<http://www.sawa-hirano.com>